



# まなびや

令和5年9月29日

10月号

## 東市ヶ尾



### 暑い秋の 熱いできごと

校長 霜田 恵子

お彼岸を過ぎて、朝晩の涼しさを感じるようになりましたが、今年の9月は特別暑かった気がします。今年も秋刀魚は不漁とのこと。日本の夏と秋が、確実に変わってきました。

20年前、高学年を担当していた私は「地球温暖化」について子どもたちと学びました。ある児童が1997年に採択された京都議定書について調べて発表し、「今のまま各国がCO2を排出し続けると地球温暖化が進む。海水温が上昇し、北極の氷が解け、日本近海でとれるはずの魚が取れなくなる…」という専門家の言葉にみんなで驚いたものでした。子どもたちの真剣な表情や「寿司ネタが変わっちゃうの?」という素朴なつぶやきがよみがえってきます。この夏、子どもたちとの学びが現実のものになってしまったと、何度も思い出しました。

とても暑かった9月15日、地域の皆様のご尽力と下市ヶ尾町内会の後援を得て、5年生の国際交流教室が行われました。今回は、インドネシアの民族衣装に身を包んだ講師の方の民族舞踊やコメ作りについての貴重な講話があり、地域の皆様による異国の楽器の演奏、担任たちの即興影絵人形劇などもあり、見どころ満載でした。今年度は既に、1・3・4年生の国際交流教室が夏休み前に開催され、東市ヶ尾小学校ならではの国際交流教室で、地域の皆様の熱い思いに支えられた異文化を学ぶ貴重な学習をすることができております。たいへん有難いことです。

来日2年という講師の方との会話の後、私は「日本舞踊は踊れないし、寿司は職人に握ってもらいたい。琴や三味線も演奏できない。私ができるのは初歩的なお習字と折り鶴くらいだ」と気付いてしまい、日本のよさを伝承するのに貢献していない自分に、残念な気持ちがありました。

しかし、1週間後の22日に市ヶ尾中学校で4年ぶりに開催された「わくわく交流会」を見学することができ、前向きな気持ちに変えていただきました。この交流会では、「地球温暖化の現状について知ろう」「日本舞踊ってむずかしいの?」「お箏(こと)に触れてみよう&弾いてみよう」「多言語オリンピック」や民生委員さんとの手打ちうどん作り体験など、実に21もの講座に分かれて生徒たちが生き生きと活動していました。まちの人との関わりの中で、小学校から継続・発展する学び、日本のよさを伝承する本格的な体験、キャリア教育に関わる学び等々が繰り広げられていたのです。この貴重な体験は、子どもたちの印象に残り、未来にきっと大きな影響を与えるはずで

す。このようなできごとがあった暑い9月。異文化を学んで多様性に気付き、日本のよさを改めて実感すると共に、自国の文化も大切にしようとする子どもたちを育てていきたいと思いました。そして、現状をしっかりと見つめ、自分の疑問を大事にしながら探究的に学ぶことも重視していかなければ…と考えます。私は、小・中学校の9年間で「すぐに答えが見つからない探究的な学び」を支える責任と、様々な体験や魅力ある人々に出会うことの深い意義について改めて考えさせられました。

市が尾の地域の皆様の底力に感動しました。いつもご支援くださり、ありがとうございます。

